

第2号

2023年3月24日発行



愛媛大学社会共創学部 同窓会会報



愛媛大学社会共創学部同窓会

同窓会会長挨拶

愛媛大学社会共創学部同窓会長

宮崎 渥

MIYAZAKI Atsushi



愛媛大学社会共創学部同窓会の会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より同窓会の運営等にご協力とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

この度、愛媛大学社会共創学部同窓会では、第2号の同窓会会報（Web版）を発行しました。前号と同様の内容に加え、令和4年9月に同窓会主催で開催しました「キャリアセミナー」についての報告も掲載しております。このセミナーは初めての企画・開催ということもあり、参加人数は想定より少なかったものの、参加者からは非常に好評なイベントとなりました。同窓会役員一同、セミナーを開催できたことをとても嬉しく思っています。

令和2年3月に設立された「愛媛大学社会共創学部同窓会」も4年目に突入いたします。今後も、卒業生、在学生はもちろん、社会共創学部に関わる全ての方々に貢献できるよう努めて参ります。引き続き、ご協力とご支援をお願い申し上げます。

目次

同窓会会長挨拶	1
学部長挨拶	2
「同窓会主催！OB・OGに聞くキャリアセミナー～先輩たちは今、何してる？～」を初開催！	3
研究室紹介／曾我 巨由教授（産業マネジメント学科）	5
山本 智規教授（産業イノベーション学科）	6
バンダリ・ネトラ・プラカシュ教授（環境デザイン学科）	7
寺谷 亮司教授（地域資源マネジメント学科）	8
卒業生の声／亀井 友斗さん（第2期生 環境デザイン学科卒業）	9
澤田 奈津季さん（第4期生 地域資源マネジメント学科卒業）	10
退職の挨拶／小田 清隆准教授（地域資源マネジメント学科）	11
同窓会からのお知らせ・編集後記	12

※同窓会会報発行時は、令和4年卒業予定者となります。

愛媛大学社会共創学部長

徐 祝旗

JO Shuki



時代は未曾有の変革期に差し掛かっており、社会、産業、科学技術、生活、文化などは大きく変わっています。私たちは多層化・複雑化している地域社会の諸課題に直面し、これまでの知識と経験のみに頼って課題を解決することができなくなり、今まで簡単に正解に辿り着いた成功体験が虚しい曇気楼のようになってしまいました。このような中、地域社会の諸課題の解決に果敢に取り組める人材が求められています。そのためには、(1)確たる知識・教養と深い思考力、(2)チャレンジ精神と行動力の双方を身に付けた人材を育成することが愛媛大学の至上命題となっています。

社会共創学部は、地域社会のニーズに特化した教育研究を着実に展開しています。文理横断的な教育を行い、理論と実践をバランスよく配置したカリキュラムによって、学生は幅広い専門性を修得し、実践を通して課題解決力の向上に資する知的活動と展開を進めています。この取組は社会から高い評価を受けています。卒業された皆様がそれぞれの領域で新たな価値創造を実践し、社会共創学部の教育使命を果たして頂いているとの思いが、令和4年9月24日に社会共創学部同窓会主催で開催された「OB・OGに聞くキャリアセミナー」に参加して頂いた皆様の立派な姿を見て確信に変わりました。

令和5月4月に、社会共創学部が設置されて8年目に入ります。今までの「成功体験」に留まることなく、これまでの教育成果を検証しながら教育目標や教育コースの見直しを検討し、教育・研究活動の継続と更なる発展に向けて努力してまいります。

同窓会の組織の発展は同窓会会員の皆様お一人一人のご理解とご協力が必要不可欠です。同窓会ネットワークは皆さまにとっては貴重な財産です。社会共創学部と連携を深めながら、同窓会の活動や会員の皆様へのサービスの充実を図って頂きたいと思っております。会員の皆様にとって、同窓会が多様な情報交換の場として、さらにはご自身の母校へのエール発信の場として機能することを切に願っています。

Nature doesn't move in a straight line, and as part of nature, neither do we

自然は一直線に動くことはなく、自然の一部である私たちもそうです

— Gloria Steinem

社会共創学部は試行錯誤しながらチャレンジし続けます。

皆様方には、引き続き、社会共創学部へのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



「同窓会主催！OB・OGに聞くキャリアセミナー」 ～先輩たちは今、何してる？～ を初開催！

2022年9月24日(土)、愛媛大学社会共創学部同窓会主催、愛媛大学社会共創学部共催により、「同窓会主催！OB・OGに聞くキャリアセミナー～先輩たちは今、何してる？～」を開催しました！このセミナーは、在学生の皆さんに社会共創学部の卒業生が社会でどのように活躍しているかを知っていただき、今後の進路選択における参考としていただきたいとの思いから、同窓会役員会が開催・企画したものです。

当日は、社会共創学部卒業生9人を講師として、また社会共創学部の就職支援委員長である園田雅江准教授をコーディネーター役としてお招きし、「大学のうちに経験した方が良いこと」「社会共創学部での学びが活かした体験」「今の職業を選んだ理由」など、実体験を踏まえたアドバイスがありました。また、業種ごとに開催した座談会では、普段なかなか聞くことができない「就活に対する不安や疑問」を講師に投げかけるなど、参加学生の積極的な姿勢が見られました。

〔講師の所属する業種〕

物流	農業、食品
福祉介護	コンサルティング、SE
人材	公務員
金融	大学院進学
製造業（開発研究・事務）	



1 講師の自己紹介

名前、所属学科、現在の仕事についての自己紹介

2 全体質問

3 パネルディスカッション

「大学のうちに経験した方が良かったこと」や「社会共創学部での学びが活きた体験」等、講師より丁寧ににお答えいただきました。



4 座談会

人気No.1!

満足度100%!「最も満足したコンテンツ」として座談会が選ばれました!



[参加学生の声]

一般的なセミナーでは聞けない生の声を先輩から聞くことができ、本当に貴重な時間でした。

これからの就職活動に自信を持つことができました。

就活について不安が多く、本セミナーに希望をもって参加しましたが、想像以上に収穫がありました。

企業のインターンシップでは聞きづらい質問も聞くことができたので、非常に勉強になりました。

自分が詳しく知らない業種、職業に対して知識を蓄え、選択肢を広げることができました。

[講師の声]

意欲のある学生ばかりで熱量をもって挑めました!

講師の立場でしたが、学生からたくさん刺激をもらいました。

今後もこのような機会があれば是非参加させていただきたいです!

本セミナーは初開催でしたが、参加学生に非常に満足いただきました! 来年度も開催予定ですので、「後輩の就職活動の力になりたい!」と活動にご賛同いただける方は、是非講師としてご参加いただけますと幸いです。

愛媛大学社会共創学部

産業マネジメント学科 ミクロ経済学

従来の経済学の分野では、個人や企業といった経済主体の行動には、「利己性」や「合理性」などの仮定をおいて議論を進めます。すなわち、個人や企業は、自身の満足や会社の利潤を追求するために合理的に行動すると考え、そのような個人や企業が集まった社会である市場の性質を分析します。自分の利益のみを追求する人たちが集まれば、社会が崩壊するような印象を持ちますが、そのような社会にはある種の秩序が生まれ、市場での取引の結果、資源配分は最も効率的になることが知られており、これが私たちの社会で市場原理が支持される理由となっています。

その一方、現実の社会において、私たちは常に利己的、あるいは合理的に行動するとは限りません。他者のことを思いやったり、平均的な収益以上もする宝くじを購入したり、やろうと思ったことをつつい先送りしてしまう、などといったことを経験した人もいると思います。このような人間の合理性に関する研究は、「行動経済学」として知られています。

現在の経済学では、「時間に対する態度」、「リスクに対する態度」、「他者を思いやる態度」によって人間の性格を捉え、私は、このような従来の合理性や利己性という前提が成り立たない状況における選択行動を分析しています。この中で「時間に対する態度」は、今受け取る予定の1万円の報酬を1年待たなければならないとき、1年後の報酬がいくらなら待つことができるか、といった聞き方でその程度を測ります。このときの金利のような数値を経済学では時間割引率といいます。例えば、1年後に1万5千円もらえるなら1年待つことができる人の時間割引率は50%となります。1年後に要求する報酬が高い、すなわち時間割引率が高い人は、今1万円受け取りたい気持ちの表れであり、相対的に今を重視する人と言えます。

この時間割引率は年齢や性別によって変化することが分かってきており、さらに、同じ個人でもより今に近いほど時間割引高くなる傾向があり、先送りの行動が関連していると指摘されています。また、家庭の環境によっても時間割引率が異なる研究もあり、このような非合理的な行動が市場経済に与える影響を研究したいと考えています。

愛媛大学社会共創学部 産業マネジメント学科

教授 曾我 巨由

SOGA Nobuyuki



愛媛大学社会共創学部

産業イノベーション学科 ロボット工学

産業イノベーション学科には、海洋生産科学コース、紙産業コース、ものづくりコースの3コースがあり、愛媛県の特徴でもある水産業・紙産業・ものづくり産業を中心とした教育を通じ、産業技術開発に必要な基礎理論と技術に加え、経営、マネジメントに関する基礎知識を身につけ、これらを融合することで地域産業の発展に貢献できる専門性を持ったゼネラリストを育成します。

今回は、ものづくりコースの紹介をします。ものづくりコースでは、設計・加工・計測・制御などの専門科目と各専門科目に対応した実験・実習・演習を学ぶことに加え、地域産業の技術課題の解決を試みる課題解決型学習教育や地域密着型体験学習を通じて、設計・製造からマーケティングまでを一貫して考える実践的な技能を身につけます。

課題解決型の授業であるプロジェクト演習では、地域課題の抽出のためにステークホルダーのところに出向いて話をうかがい、自らの課題解決法を構築していきます。解決する課題は、真珠貝の加工や植物の計測・収穫、新しい素材の開発やドローンなど、多岐にわたっており、学生達が主体的に取り組んでいます。ものづくりコースの部屋には、3Dプリンタやレーザーカッター、CNCフライス盤などの様々な加工機があるため、学生達は自らのアイデアをすぐに試作することができます。実際にもものを作ることによって、より深く議論することができるようになります。卒業研究では、プロジェクト演習で身に付けた課題解決力と、座学で学んだ専門知識や、幅広いものの見方、実験実習で得た実践力を組み合わせて、より高度な課題解決を行います。一例として、写真のように、地元企業の協力を得て、学内を自動で走行する車椅子を実現しました。

これらの活動を通じて、地域課題を解決できる人材を育成しています。

ものづくりコースの詳細は、
以下のWebサイトをご覧ください。

<https://ec.cri.ehime-u.ac.jp/>



愛媛大学社会共創学部 産業イノベーション学科

教授 山本 智規

YAMAMOTO Tomonori



卒業研究(自動運転車椅子)



愛媛大学社会共創学部

環境デザイン学科 土木施設工学、地盤防災工学

私は今、降雨による土砂災害と地震による地盤災害を対象に地理情報システム (GIS: Geographic Information System) をツールとして地域空間における各種環境的要因データを解析しながら研究活動を行っています。また、土砂災害、浸水・洪水、地震災害等に対して安全・安心な地域づくりを目指して、災害データや空間情報データ等も解析しています。これらの研究成果は、今後の防災・減災に役立つと考えています。以下に、私の研究内容の一部を示します。

<プロジェクト演習系調査研究例>

プロジェクト演習系調査研究等は、学生の少人数(3人~4人)グループで地域の課題に取り組んでいます。資料調査・現地調査により情報・データを収集し、課題を解決する案を考えてポスターまたは口頭で発表を行っています。今まで取り組んできたプロジェクト演習系課題は以下のとおりです。

- GISを用いた地すべりハザードマップの作成
- 土砂災害危険個所の地形地質的分布図作成と土石流危険区域内リスク評価
- 平成30年7月西日本豪雨災害時愛媛県南予地域や広島県南部地域における土砂災害の分布特性

<今までの卒論研究テーマ>

- 災害歴データに基づく防災GISデータベースの作成
- 松山市中島地区におけるみかん畑傾斜地の安定性評価に関する研究
- 平成30年7月豪雨による土砂崩壊地分布解析とXRAINデータとの関連性分析
- 南海トラフ巨大地震を想定した西条市における初期対応の検討
- 都市部土砂災害被害リスク評価法の確立~広島市安佐南区を事例に~
- 愛媛県における災害歴史地図データベース
- GIS解析法による地形情報を用いた豪雨時表層崩壊危険傾斜地抽出
- 高齢者向けアンケート調査結果による防災街づくりに関する検討
- モザンビーク・ナンプラ市貧困街における居住環境の現状と課題からみる持続可能な地域社会づくりに関する研究
- 災害時ウェブサイトへの集中アクセス対策方法の模索~PHPプログラムによる自動表示簡素化の有用性~

<今後の展望>

日本の国土の約7割は山岳地であり、急傾斜地周辺に住む人口もかなり多くなっています。傾斜地から離れた地域に暮らす人口の多くも河川流域や沿岸域に住んでおり、頻繁に浸水・洪水災害に見舞われます。また、国土全体が地震多発プレート境界域に位置していることや活動断層が高密度分布しているため、地震による被害や津波の恐れも非常に高い状況です。これらのことから、日本全土に自然災害に対して安全な場所はありません。長年の災害経験や防災技術の進歩から、今は自然災害による人的被害は少なくなってきましたが、物的被害や経済的インパクトは年々増加傾向にあります。このような状況の中、ソフト防災とハード防災の両方を同時に進めながら地域社会の強靭化を目指し、自然災害により被害を最小限にすることが大きな課題です。また、日本の防災技術を世界に展開し、災害弱者を救うことも大きな課題です。これらのことを中心に研究活動を進めたいと考えています。

愛媛大学社会共創学部 環境デザイン学科

教授 **バンドリ・ネトラ・プラカシュ**

BHANDARY

Netra

Prakash



愛媛大学社会共創学部

地域資源マネジメント学科 地理学

地域資源マネジメント学科・文化資源マネジメントコースでは、2年生の7月にゼミ配属が決まります。今年度の寺谷ゼミ構成員は、2年生3人、3年生4人、4年生5人、大学院生1人であり、ほぼ通常に戻ったゼミ活動を紹介します。

正課授業として、教室で実施するのが、①通常ゼミ（2、3年生はプロジェクト調査や地域貢献活動の準備・成果報告、4年生は卒論進捗状況報告）、②教科書輪読ゼミ（前期「田園回帰がひらく新しい都市農村関係」、後期「空き不動産から考える地方都市再生」の報告者を決め講読）、③論文紹介ゼミ（卒論に関わるキー論文を3年生が紹介、淡野ゼミと合同実施）の3種ゼミです。また、プロジェクト演習授業として、大洲市での2泊3日程度のフィールド調査を継続しており、毎年2～4人の調査班をつくり、年度末には調査報告書を刊行しています。今年度の調査テーマは「恋の木地区の農業と生活史」「肱南地区の古民家リノベーション」「中学校における地域学習」です。

準正課活動としては、①松山市久谷地区のまちづくり活動、②愛媛県産酒の宣伝・販促活動があり、活動は愛媛新聞などで紹介されています。今年度から始めた前者では、地域住民や市役所職員と協働し、ホテル祭りなどの地区イベント、久谷巡りなどの中学校行事、小・中学生への地元文化資源への理解度調査、地区紹介ホームページの作成などを実施しています。後者では、学生による地酒コンテスト実施や販促活動の後援などがあり、第41回全国きき酒大会（10月、東京）にはゼミ生3人が愛媛県代表として参加しました。

11月の大学祭では、ゼミ時間に皆で製作した応援グッズを持って、4年生のダンス・ラストステージを見学しました。四国電力勤務のゼミ卒業生による出前エネルギー授業（7月）、同支店長による学部1回生向け講演会（10月、社会共創フォーラム）も実施できました。このように、寺谷ゼミは、研究、地域貢献、親睦・懇親、同窓会活動を精力的に行っています。

愛媛大学社会共創学部 地域資源マネジメント学科

教授 寺谷 亮司

TERAYA Ryoji



2021年3月に環境デザイン学科を卒業し、現在は愛媛県内の広告代理店で働いています。

大学時代を振り返ると、様々なことに挑戦する機会が多かったと感じます。皆さんもご存じの通り、社会共創学部は「座学」よりも「フィールドワーク」に重きを置いており、ステークホルダーとの対話・交流などの実践を行うことが多い学部でした。私は入学当初、地域活動に参加することに対して消極的でした。しかし、大学での多くのフィールドワークなどとおして、自分で課題解決のため試行錯誤し、正解のない問題にチャレンジすることに面白さを見出すようになりました。その結果、大学生活の後半では授業や授業以外の活動にも積極的に参加するようになりました。これらの活動を通して愛媛を好きになり、卒業後も県内企業に就職し働いています。そして就職後も、社会共創学部で培った学びが活きていると実感しています。社会共創学部では地域課題解決のため、地域を「よく知り、企画し、実践する」の一連の流れを行います。この流れは実社会で働く流れと、とても似ていると思います。現実世界では、「○○=△△」のような学問の公式のように単純な問題は少なく、複数の事象が絡み合って問題が発生しているケースがほとんどです。その決まった正解がない問題に対して、自ら仮説を立て、実行、検証、修正を行っていくことが重要となります。社会では、この仮説思考力がとても重要であり、社会共創学部での学びによってこの力を養うことができたと感じます。

社会人になって1年半（※記事執筆時点）では、まだまだ力不足を感じる毎日ですが、社会共創学部で学んだことを大切にしながら、社会で活躍することができる人材となれるように日々、努力をしています。貴重な大学生活を社会共創学部で過ごすことができ、大変嬉しく思います。最後に、社会共創学部の益々のご発展を祈念しています。

第2期生 環境デザイン学科卒業

亀井 友斗さん

KAMEI Yuto



2022年度に卒業しました、澤田奈津季です。大学生活を振り返って、改めて感じることは大学での経験や出会い、つながりは人生におけるかけがえのない財産であるということです。

私は、出身地である瀬戸内海の離島の活性化について学びたいと思い、地域資源マネジメント学科農山漁村マネジメントコースに入学しました。そこで私の地元や私の中での課題を念頭に、様々な大学のプログラムに参加しました。

その中でも、私にとって特に印象的だった経験は、SUIJIラーニングプログラムと愛媛大学リーダーズスクールです。

SUIJIラーニングプログラムでは、これまで全く関わりのなかったインドネシア人の学生と、地域に入って寝食を共にし、フィールドワークをする中で多くの気づきと学びがありました。特に、インドネシアの農村に滞在した時には、現地の住人との交流やホームステイをとおして、地域における「豊かさ」について見つめ直すきっかけになりました。ここでの学びは、現在の私の活動における原点にもなっています。

愛媛大学リーダーズスクールでは、「環四国サイクリングプロジェクト」と題して、台湾の学生と自転車で行く四国一周する国際交流プロジェクトの立ち上げに関わりました。ゼロからプロジェクトを立ち上げるという過程をとおして、メンバーや先生方と本気でぶつかり合いながら、信頼関係や結束感を強め、プロジェクト成功後にはみんなで達成感に満ち溢れるという素晴らしい体験をすることができました。この経験を共にした仲間は、今でも私にはかけがえのない存在です。また、ここで出会った国境を越えた友人も今でも関係が続いており、貴重な出会いがたくさんありました。

これらの経験を踏まえて、現在は地元の島で外国人向け観光事業の立ち上げに挑戦しています。瀬戸内海という世界に誇れる地域資源を存分に生かして、地方や田舎での新たな「豊かな暮らし」を実現することが私の目標です。そのため、これまでの大学での学びと経験、つながりをしっかりと生かして、瀬戸内、愛媛、地方の小さな町の可能性を世界に向けて発揮していきたいと思います！

第4期生 地域資源マネジメント学科
農山漁村マネジメントコース卒業

澤田 奈津季 さん
SAWADA Natsuki



社会共創学部生のみなさんへ

～43年の教員生活を振り返って～

愛媛大学社会共創学部 地域資源マネジメント学科

准教授 小田 清隆

ODA Kiyotaka



教員生活の道を歩み始めたのは、昭和55年(1980年)4月1日。それから、43年が経ち、いよいよ令和5年末で退職を迎えます。社会共創学部生の皆さんが生きてきた年数の2倍、教員として生活してきたこととなります。終わってみると長いような、短いような、微妙な心境です。

高校の教員として28年、大学教員として15年。その多くを高校改組・大学改組の渦中に居ました。学校の仕組みを変える・新しいものを作り上げるのは物凄く労力がかかります。それは仕組みを作り上げるだけでなく、人としても辛いものです。守りの姿勢でこのままで、という立場であれば楽なのですが、それでは、世間が許してくれません。現在の愛媛県立高校の再編・統合がまさにそれです。愛媛県内の少子化の進行は著しく、愛媛県教育委員会は、現在の県立高校55校を44校にという大胆な案を打ち出し、この文が読まれる頃には、現実として決定稿が出されているものと思います。

改革を推し進めてきた立場から言えば、これまでが平穏でありすぎたということです。ただし、教育委員会・現場の教員・地域の連携がなされていれば、このような極端な案にはならず、段階的なプランが出されたはずです。この愛媛県の改革案は上記の3者がこれまで自分事として考えずに擦り合いをしてきた結果であると言えます。

誰しも嫌な立場には居たくありません。しかし、同調圧力のもとで、自分一人であっても、それから飛び出して取り組まなければ、改革は成功しません。私自身は、10年単位で先を見て改革を進めてきました。平成という時代の30年間はほぼそれに追われた人生でした。ただし、悔いはありません。何もしなくてダメになるより、自分の一生の仕事として、前に向かって仕事を押し進めたいものです。社会共創学部は生まれて間もない学部、その学部の卒業生の皆さんは、何もないところへ飛び込み、一つの道を作ったメンバーです。成し遂げたメンバーと言っていい。そのメンバーの一人として自信をもって、前に突き進んで行ってほしい。



同窓会からのお知らせ

●同窓会の活動について

「愛媛大学社会共創学部同窓会」は、第1期生の卒業に合わせて、令和2年3月に設立されました。同窓会は、愛媛大学及び社会共創学部の発展に寄与することを目的に活動していきます。

●同窓会ホームページについて

令和4年1月末に、同窓会ホームページを開設しました。同窓会活動に関することや同窓会役員である皆さまへのご連絡等を、定期的に発信していきます。また、同窓会会報も年1回程度、掲載していきますので、ぜひご覧ください。

<https://www.cri-ehime-u-graduate.jp/> ▶



●会員情報登録・変更のお願い

同窓会を運営するにあたり、社会共創学部を卒業された正会員の皆さまの情報が必要となります。また、住所や電話番号等の変更がありましたら、変更手続もお願いします。

なお、皆さまからお預かりした個人情報については、「愛媛大学社会共創学部同窓会個人情報保護方針」に則り、適切に個人情報の保護に努めます。

●会費納入のお願い

同窓会設立前に入学された皆さま(平成28～令和元年度)については、入学時に同窓会会費を納入していただいております。同窓会の予算は、皆さまからの会費(一人20,000円 初回のみで以後は必要なし)があつて成り立っていますので、未納者の方につきましては、ぜひ納入をお願いします。

なお、年1回、同窓会会費未納の方には納付依頼文書を送付させていただきます。

●公式LINEのご登録のお願い

この度、社会共創学部同窓会の公式LINEを開設しました。友達登録をしていただくと、本会報含む同窓会活動の内容をご確認いただけます。また、会員情報の変更(事務手続き全般)やイベントの案内など、同窓会に関する連絡は一括してこの公式LINEにて行います。ご登録はQRコードより読み取りをお願いします。

ID: @688jsczb

愛媛大学社会共創学部同窓会で検索!



編集後記

社会共創学部同窓会会報第2号の発行にあたり、ご協力頂いた皆さまには厚く御礼申し上げます。

今年度の活動の中心は「キャリアセミナーの開催」でした。本セミナー参加者の満足度が非常に高く、「自信がついた」「選択肢を広げることができた」「想像以上に収穫があった」などの声をいただきました。また、参加者である後輩たちが積極的に質問する姿勢を見て、私たち同窓会役員、講師として参加してくれた卒業生一同はたくさんの刺激を受けました。来年度は今年度の内容をブラッシュアップし、より多くの後輩たちの進路選択・就職活動の一助となるように頑張ります。

これからも、社会共創学部同窓会の活動にご協力とご支援をいただけますと幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

〈発行者〉 愛媛大学社会共創学部同窓会事務局

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番(愛媛大学社会共創学部内)

E-mail : support@cri-ehime-u-graduate.jp